

公平と税金のつながり

所沢市立中央中学校

一年 磯野 みなみ

私が公平について考えるようになったきっかけは、1学期の定期テスト前に開かれた学習相談でした。先生は、苦手な单元がある友達や質問しづらい友達や私などに個別で丁寧に教えてくれました。学習相談に参加した友達と私は、テストに向けて少しずつ自信がついていき無事テストを行うことができました。「みんなと同じことをする」だけでは本当の意味での公平ではないと、この時に改めて感じました。

小学生の時に、社会の授業で先生が黒板に描いたイラストを思い出します。背の高さが違う三人が、同じ高さの台に乗って野球を観戦しているイラストでした。三人に同じ台を配った時に、左の男の子は塀が高く試合が見えません、真ん中の女の子は塀と顔がギリギリであまりよく試合が見えない状態でした。右の男の子は、もともと塀がなくてもグラウンドが見えます。ですが、みんなと同じように台を配られると右の男の子は、さらに高いところのぼるようになってしまい、本来なら必要のない高さになってしまいます。そこで公平という考え方が出てきます。三人の身長に合うように台を用意することで、三人が野球の試合を見ることが出来ます。必要な人に必要なサポート

があることで、初めてみんなに同じ経験やチャンスを与えられるのが、公平だと教えてくれました。私は、「平等」と「公平」の違いがはつきりと分かりました。公平とは、みんなの違いを認めて必要なサポートや配慮をすることだと思っています。

この公平という考え方は、社会全体を支える税金にもつながっています。例えば、所得税という税金では収入が多い人ほどたくさん税金を納めることになっています。一方であまり収入のない人には負担が重くならないように考えられています。誰もが豊かな生活を送れるようにするために、税金の集め方も工夫があり、社会の中の公平さが保たれています。所得税以外にも、私たちの身近にはいろいろな税金があります。例えば、消費税は商品を買うときに誰でも同じ割合で払う税金です。いろんな人が同じ税率で払うので平等に見えますが、実は税金はお金に余裕がない人ほど負担が重く感じる場合があります。そこで、消費税で集めたお金は子どもやお年寄りの支援、医りよう・福祉などに使われ、みんなが安心して暮らせるように工夫されています。また、家や土地を持っている人のための固定資産税も、その人の資産に応じて公平に集められています。税金の仕組みには、社会全体で支え合う「公平」の考えがこめられていると感じます。

私は、多くの人が税金をお互いに公平に負担し合うことで、社会の基盤を支えていることが確かになりました。税は単なる負担ではなく、みんなの未来を守る大切な制度だと思っています。私はきちんと税のことを理解し、未来のより良い社会づくりに貢献したいです。